

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700101	人間環境学共同演習	1～2	2×2	吉田・藪谷・高橋昇 他
期間	曜日	時限	備考 ：2ヵ年連続履修	
通年	水	1		

授業のキーワード：

人間環境学の構築、プレゼンテーション、全体的展望

授業のテーマ：

19世紀後半より学問間の分断が進み、全体的展望が失われるようになった。本研究科では、人間と環境との相関という全体的現象を参照点とすることで、自らの専門領域の位置づけを図るとともに、逆に個別的研究を深めることからこの全体的現象を照射するという、循環的な学の構築を目指している。

3名の担当者以外にも、本研究科に属する研究指導教員は積極的にこの演習に参加し、議論に加わっていくことにする。

【2ヵ年連続して履修し計4単位を修得すること】

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者の専門とするテーマについて発表を行う。そのプレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の研究指導分野の院生にも理解できるように配慮することが求められる。

授業の計画：

修士課程1年次生は、卒業論文を中心としたそれまでの各人の学習成果について、それをいかにして大学院における研究につなげていくのかを発表し、他の出席者との質疑応答によってその適切さを再確認する。

修士課程2年次生の場合、修士論文のための研究の進展具合が中心となるが、その問題意識、研究方法の適切さ、予想される成果などについて、他の出席者の質問に答え、あるいはコメントを受けての検討を行う。

授業方法：

各受講生の研究テーマを中心とした発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

この演習では、授業テーマに掲げた学問的態度を養い、人間と環境との相関という視点のもとに、全体的知の融合をはかり、人間環境学の構築をめざす。

評価方法：

演習への貢献と出席状況を加味して評価する。

教科書：

なし

参考文献：

各発表者が指定。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
710101	人間存在基礎論演習	1～2	2×2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	金	2	

授業のキーワード：

人間存在、存在論、倫理、形而上学、歴史

授業のテーマ：

人間存在の存在論的本質について近代およびそれ以前の諸思想とそれに対する現代哲学の批判的議論を確認し、人間存在の本質を考究する。また、この存在論的な議論を基礎として人間存在の具体的なあり方を考えていく。

授業の概要：

近現代の哲学者の存在論に関する発表と議論を行う。また、いくつかのテキスト（原書）を手がかりに議論を行う。テキストについてはM.Heidegger “Sein und Zeit”、”Nietzsche”、F.NietzscheのFragment、和辻哲郎『人間の学としての倫理学』などを予定。

授業の計画：

- 1～2 演習の計画の説明
- 3～14 発表およびテキスト（原書）の講読と議論
- 15 前期のまとめと復習
- 16 後期の予定の確認と復習
- 17～29 発表およびテキスト（原書）の講読と議論
- 30 全体のまとめと復習

授業方法：

講読と議論、発表

達成目標：

人間存在の本質に関する現代哲学の議論を理解し、自ら哲学の論文を作成し得るようになる

評価方法：

原書の翻訳やレジュメ作成、議論への参加の状況、発表などについて総合的に評価する

教科書：

近現代のドイツ哲学の原書を中心に選定する。適宜指示を行う。

参考文献：

授業中に指示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
720101	人間存在基礎論特論	1・2	4	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	木/金	4/3	

授業のキーワード：

人間存在、存在論、倫理、形而上学、歴史

授業のテーマ：

人間存在の存在論の本質について考究するため、哲学及び倫理学すなわち本質と実践という伝統的な二つの視点から基礎的な理解を確認する。さらに、現代において物理学、脳科学、生物学、地球環境学、歴史学など様々な分野における人間理解の転換を確認し、今日的な人間存在に関する議論を整理する。

授業の概要：

倫理学の歴史と現代の課題、哲学の歴史と現代の課題をそれぞれ確認しながら、両者二つの観点から人間存在の存在論的基礎について深く思索する。そのために、授業では講義が一定段階に進んだ段階で適宜レポートを課し、思索力、反省力の充実を確認、さらに、これに合わせた課題を適宜与えていく。

授業の計画：

哲学的理解

- 1～2 哲学の誕生と哲学的思索、すなわち学問的思索の本質と存在について
- 3～4 古代哲学における存在理解の岐路とヨーロッパ的存在概念の生成
- 5～6 キリスト教とルネサンス 宗教的存在理解と機械論的自然理解のせめぎ合い
- 7～8 近代における「合理的」な存在理解とその限界 理性の有限性
- 9～10 物理学における存在理解の根本転換 力と場と質量
- 11～12 近代哲学の破綻とニーチェ思想 プラトニズムの転倒
- 13～14 ニーチェ以後の存在理解 諸分野への影響と課題
- 15 まとめ

倫理的理解

- 1～2 倫理と倫理学の歴史の概要
- 3～4 現代倫理学の困難 ニヒリズムの本質
- 5～8 現代の倫理的課題とその諸相 環境 脳 コンプライアンスなど
- 9～10 現代の倫理的問題の本質
- 11～12 倫理の選択肢 非西洋的人間観の再評価
- 13～14 人間存在と人格の存在論的意義
- 15 まとめ

授業方法：

講義を行い、人間存在に関する総合的なレポート課題を課す

達成目標：

人間存在に関する理論的な本質の議論を行える能力の獲得

評価方法：

段階的なレポート 最終レポート

教科書：

なし

参考文献：

適宜指示

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730501	資源循環型経済社会演習	1～2	2×2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	木	1	

授業のキーワード：

循環型社会、資源循環、エネルギー、エントロピー、外部費用、拡大生産者責任、文明

授業のテーマ：

循環型社会の構築は低炭素社会・自然共生社会と並んで、持続可能な社会を実現するための主要な政策課題であり、わが国は循環型社会形成推進基本法をはじめ多数のリサイクル諸制度を制定してきた。本演習では、より良い循環型社会の実現をめざして、リサイクル諸制度の国際比較、国内循環と国際循環との整合性、資源循環とエネルギー効率、循環型社会の文明史的な位置づけ等を主要テーマに、資料解析力と政策形成能力の向上を図るものである。

授業の概要：

授業の前半にテキストを輪読して内容理解を深め、後半に調査研究テーマの設定、研究計画書の作成、中間報告、最終報告と段階的な作業を課し、修士論文の作成に向けた指導を行う。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 問題意識の討議
3. テキスト輪読・テーマの設定
4. テキスト輪読
5. テキスト輪読
6. テキスト輪読・仮説の検討
7. テキスト輪読・仮説の検討
8. テキスト輪読・研究計画書
9. テキスト輪読・研究計画書
10. テキスト輪読
11. テキスト輪読・資料収集と分析手法
12. テキスト輪読
13. テキスト輪読
14. 中間報告 (1)
15. 中間報告 (1)

<後期>

1. ガイダンス
2. テキスト輪読
3. テキスト輪読・資料分析と推論
4. テキスト輪読
5. テキスト輪読
6. 中間報告 (2)
7. 中間報告 (2)
8. テキスト輪読
9. テキスト輪読
10. テキスト輪読・仮説の検証
11. テキスト輪読
12. テキスト輪読
13. 最終報告
14. 最終報告
15. まとめと反省

授業方法：

テキストは輪読方式とする。各自テーマに基づく調査研究はスライド発表とする。

達成目標：

資源循環に関する学説理解と資料解析力、政策形成能力、プレゼンテーション能力を修士課程にふさわしいレベルに引き上げる。

評価方法：

発表内容60%、授業貢献度40%として評価する。

教科書：

テキストは基本的に受講生の問題意識や修得知識等に応じて選定する。

室田 武ほか『循環の経済学』学陽書房 2,400円 (ISBN4-313-81402-7 C1033 P2472)

細田衛士『グッズとバズの経済学』第2版 東洋経済新聞社 2,700円 (ISBN978-4-492-31426-5)

参考文献：

適宜指示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730201	地域経済演習	1～2	2×2	藪谷あや子
期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修	
通年	月	5		

授業のキーワード：

定常化社会、成長・拡大・開発・豊かさ、GNH（国民総福祉）、地域再生

授業のテーマ：

日本再生のビジョンとして、「成熟経済」後の社会構想と人間・地域・価値を考える。

授業の概要：

テキストを輪読し、基礎理論および最新の理論状況を学ぶ。受講生は自分の問題意識で再構成する

授業の計画：

<前期>

1. オリエンテーション
2. 3. 4. 創造的定常経済システムの構想
5. 6. 7. 資本主義、社会主義、エコロジー
8. 9. 10. グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカル
11. 12. 13. コミュニティとしての都市
14. 15. 地域の「豊かさ」とは何だろうか

<後期>

1. 前期のレビュー
2. 3. 4. 自治体の課題からみた「社会保障と税の一体改革」
5. 6. 7. 進化と福祉社会
8. 9. 10. 第一の定常化と第二の定常化
11. 12. 13. 近代における私利の追求、成長・拡大
14. 15. ポスト資本主義／定常型社会における価値

授業方法：

テキストの輪読（受講者がレジュメ、報告、コメント、司会をする）を軸にして進めるが、適宜、参考文献を指示するので、多面的なコメントや書評を求める。

達成目標：

- ① 専門書を精読、意見交流するなかで研究者としての主体性、自立性を養う。
- ② 抽象的な理論を現実的に課題や現象にひきつけて理解できるよう心がける。
- ③ 論文の作成の技法、プレゼンテーション能力の訓練をする。

評価方法：

授業への取り組み 50% 試験（レポート）50% で評価する

教科書：

広井良典「創造的福祉社会」ちくま新書、2011年、850円＋税

参考文献：

授業中に適宜、指示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730401	財務会計演習	1～2	2×2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	金	1	

授業のキーワード：

財務会計 会計制度 リース会計 IFRS

授業のテーマ：

日本企業の事業の国際化および証券市場のグローバル化にともない、企業のディスクロージャーはグローバルスタンダードに拠ることを求められてきている。この流れは、わが国の会計制度に歴史的な転換を迫るものとなり、会計ビッグバンと呼ばれる会計制度の大きな変革が進められてきた。最近では、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、わが国の会計制度は大きく変貌してきている。

本演習はこうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものである。

授業の概要：

前期にはこれまでの会計制度の変革を、後期にはとりわけリース会計基準についてとりあげる。また、修士論文指導もあわせて行う。

授業の計画：

前期

1. 日本の会計制度の動向
2. 企業会計原則と概念フレームワーク
3. 連結財務諸表制度
4. 税効果会計
5. 退職給付会計
6. 時価主義
7. 減損会計
8. キャッシュフロー計算書
9. 企業結合会計
10. 会社法会計
11. 金融商品取引法会計
12. 資産除去債務に関する会計
13. 会計制度の国際的動向
14. 会計制度の新たな展開
15. 総括・修士論文中間報告

後期

1. リース取引に関する会計上の論点
2. リース取引の本質と会計処理
3. 日本のリース会計基準の分析（レシー）
4. 日本のリース会計基準の分析（レサー）
5. 日本のリース会計基準改正に対する反応
6. 修士論文中間発表
7. リース取引の認識を巡る諸問題
8. リース取引の測定を巡る諸問題
9. セール・アンド・リースバックの会計
10. リース会計基準の展望
11. リース会計に関する論点総括
12. 修士論文指導
13. 修士論文指導
14. 修士論文指導
15. 修士論文研究報告

授業方法：

各回のテーマについて、受講生の発表の後、補足説明を行い、実態や今後の課題についてのディスカッションを行う。

達成目標：

わが国の会計制度の変遷過程を理解し、様々な会計手続きについての論点を把握することによって、わが国の会計制度の特徴を捉えることができるようになること。

評価方法：

各回の発表：100%

教科書：

下記テキストを予定しているが、受講生の興味・関心および修得知識に対応して変更することも可能であるため、開講時に受講生と相談の上、決定する。

山地範明 『基本的テキストシリーズ 会計制度 新訂版』 同文館出版 ￥2,100

藤井良広編著 『環境債務の実務』 中央経済社 ￥3,800

佐藤信彦・角ヶ谷典幸編著 『リース会計基準の論理』 税務経理協会 ￥3,200

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740401	環境経済学特論	1・2	4	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード：

科学の統合 人間と環境とのつながり 経済学史（経済思想の歴史） 所得水準と幸福 経済体制と環境

授業のテーマ：

経済学を他の学問領域と統合することを目指した環境経済学者K.W.カップや「公害」(kogai)という言葉の世界で最初に用いた経済学者都留重人の環境経済思想について取り上げる。

授業の概要：

前期では、教科書的な環境経済学とカップのそれとを比較しながら、環境問題の原因のとりえ方とその解決法について考えていく。後期では、日本の環境経済学に多大な影響を与えた経済学者都留重人の業績を振り返り、その現代と将来における意義と残された課題について論じる。

授業の計画：

(前期)

- (1) A.C.ピグーの経済学
- (2) K.W.カップの経歴と初期の思想
- (3) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』①
- (4) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』②
- (5) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』③
- (6) 『私的企業の社会的費用』①
- (7) 『私的企業の社会的費用』②
- (8) 『私的企業の社会的費用』③
- (9) カップの教育思想
- (10) アダム＝スミス『国富論』①
- (11) アダム＝スミス『国富論』②
- (12) アダム＝スミス『道徳感情論』
- (13) J.S.ミル『自由論』
- (14) J.S.ミル『経済学原理』
- (15) まとめ

(後期)

- (1) イントロダクション
- (2) 都留重人の経歴と基本思想
- (3) 『所得と福祉』①
- (4) 『所得と福祉』②
- (5) 『公害の政治経済学』①
- (6) 『公害の政治経済学』②
- (7) 『公害の政治経済学』③
- (8) 『公害の政治経済学』④
- (9) マルクスの思想
- (10) 『資本論』①
- (11) 『資本論』②
- (12) ケインズの思想
- (13) ケインズ『一般理論』①
- (14) ケインズ『一般理論』②
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

科学の統合の重要性について理解する。現代経済のしくみとそれが引き起こす環境問題について理解する。経済学史の重要性を理解する。

評価方法：

期末試験100%

- 環境経済学の有効性と限界をよく理解している……………A
 環境経済学について知っているがあまり説明力がない…B
 ところどころ間違って理解している……………C
 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

K.W.カップ『私的企業と社会的費用』岩波書店。
 都留重人『都留重人著作集 全13巻』講談社。
 尾高煌之助・西沢保編『回想の都留重人—資本主義、社会主義、そして環境』勁草書房。
 その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740501	資源循環型経済社会特論	1・2	4	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード：

資源、エネルギー、物質・エネルギー代謝、廃棄物、経済的厚生分析

授業のテーマ：

20世紀の高度に発達した物質文明は地球規模での環境破壊をもたらしたことから、21世紀は持続可能な新たな文明のあり方が模索されている。前期は文明とは人間と自然との間の物質・エネルギー代謝の仕方（様態）であるという視点から、持続可能な文明の代謝のあり方を展望する。後期は20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済原則を明らかにし、持続可能な循環型社会の経済システムのあり方を展望する。

授業の概要：

前期は、各種の原料資源、エネルギー資源の特性等を概説したうえで、人間と自然との物質・エネルギー代謝と人口、経済システム、科学技術、エントロピーとの係わりを論じ、この代謝の歴史の変遷から持続可能な文明の代謝のあり方を展望する。後期は、廃棄物の市場価格や資源循環の阻害要因等を分析し、循環型社会の政策体系や環境税・デポジット制度などの具体的政策の経済分析を行う。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 環境・資源・文明
3. 原料資源（鉱物資源）
4. 原料資源（生物資源・水資源）
5. エネルギー資源（化石燃料）
6. エネルギー資源（核エネルギー）
7. エネルギー資源（再生可能エネルギー）
8. 資源と人口（環境の人口圧力）
9. 資源と経済システム
10. 資源と科学技術
11. 資源とエントロピー
12. 資源開発と環境問題
13. 日本の物質・エネルギー代謝
14. 文明と物質・エネルギー代謝
15. 持続可能な文明と物質エネルギー代謝

<後期>

1. ガイダンス、廃棄物の経済学的解釈
2. 市場経済と市場メカニズム（補論1）
3. 廃棄物の市場価格
4. ワンウェイ型経済の市場価格の様相
5. 市場メカニズムと外部費用
6. 外部費用の発生要因（1）
7. 外部費用の発生要因（2）
8. 限界理論（補論2）
9. 企業の行動原理と供給曲線（補論3）
10. 余剰と経済的厚生（補論4）
11. 循環型経済構築の政策的着眼点
12. 循環型経済構築のための政策体系
13. 環境税の経済分析
14. デポジット制度の経済分析
15. 拡大生産者責任の経済分析、まとめ

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてスライド・プリント等の資料を用います。

達成目標：

前期はエントロピー概念を基礎に、文明を物質・エネルギー代謝の視点からとらえる方法論を修得する。後期は市場メカニズム、廃棄物の市場価格、外部費用の発生メカニズム、限界概念、経済的厚生分析の手法を理解し、環境問題の経済学的アプローチの基本を理解する。

評価方法：

授業の取組み：30%、テスト：70%で評価する。

教科書：

指定なし

参考文献：

- 佐々木信行『資源論入門』コロナ社（ISBN4-339-06598-6）
 西山孝『地球エネルギー論』オーム社（ISBN4-274-13227-7）
 植田和弘『環境経済学』岩波書店（ISBN4-00-004576-8）
 吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』東海大学出版会（ISBN4-486-01373-5）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740201	地域経済特論	1・2	4	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード：

持続可能な地域社会、グローバル／ナショナル／リージョナル／ローカル

授業のテーマ：

日本の経済・社会の課題を、前期―地域、後期―自動車産業という切り口から考察する。
 ～文明的転機のただなかで生き残りをかけて構造転換に邁進する自動車産業の大集積地である名古屋大都市圏の変貌（産業的、空間的構造変化）を、日本経済と日本的経営の進路と関わらせて考察する。

授業の概要：

前期は、行政統計をベースに愛知県―西三河地域の地域経済の特徴・構造・問題点を探る。
 後期はリーディング産業：自動車産業が構造転換に果敢に立ち向かう姿を通して、日本の製造業（モノづくり）の進路を考える。関連する経済学の基礎理論を紹介する。

授業の計画：

- | | |
|---|--|
| <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日本における名古屋大都市圏の位置 3. 同 構造分析 4. 愛知県の人口データ分析 5. 同 構造分析 6. 愛知県の産業データ分析 7. 同 構造分析 8. 中間まとめ 9. 西三河地域の人口・産業データ分析 10. 同 構造分析 11. 西三河地域の財政データ分析 12. 同 構造分析 13. 行政・シンクタンクの調査報告書の概要紹介 14. まとめ | <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. データで確認する西三河自動車産業集積地 3. 空間構造で確認する西三河自動車産業集積地 4. 産業集積地に関する理論①～日本 5. ②～海外 6. 産業空洞化に関する理論①～日本 7. ②～海外 8. 中間まとめ 9. トヨタ論①～企業間関係（トヨタピラミッド） 10. ②～トヨタ生産方式 |
|---|--|

授業方法：

- ・地域の産業・経済・企業・自治体・世帯等の現状と当面する諸課題―を把握する。
- ・統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。

達成目標：

テキストを軸に講義するが、DVD、新聞・雑誌記事を資料として活用する。

評価方法：

期末試験100%で評価する。

教科書：

岡崎信用金庫「月報NO.516～NO.521」藪谷執筆論文（授業中に配布）、2013年、100円*6冊

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760701	財務会計特論	1・2	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード：

財務会計 IFRS コンバージェンス

授業のテーマ：

前期は、財務会計の基本を深く理解するために、財務諸表の主要な項目について、その会計理論・会計処理を学ぶ。また、会計制度の変革とともに新設・改訂された会計基準についても学び、最新の財務会計の新展開について理解する。後期は、近年、日本においてIASBによって設定された国際財務報告基準（IFRS）に対応すべく、大規模かつ頻繁に会計基準の制定や改訂が推し進められているため、このIFRSへの対応をとりあげ考察していく。

授業の概要：

会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理について仕訳をまじえて詳細に解説する。また、その後、国際会計基準について総合的、体系的に論述し、その変遷と日本のIFRSへの対応をとりあげ論及する。なお、本科目は企業会計の基礎知識、とりわけ会計制度についての基本的知識および簿記処理手続についての知識が必要であり、この科目の受講に際しては、日商簿記検定2級（商業簿記）以上の知識を有していることを条件とする。

授業の計画：

前期

1. 会計の意義と領域
2. 会計の法的制度
3. 会計の基本構造
4. 利益計算の基本原理
5. 現金・預金と金銭債権の会計
6. 有価証券の会計
7. 棚卸資産の会計
8. 有形固定資産の会計
9. 無形固定資産と投資その他の資産の会計
10. 繰延資産の会計
11. 負債の会計
12. 純資産の会計
13. 収益と費用の会計
14. 財務諸表の作成
15. キャッシュ・フロー計算書

後期

1. 国際会計基準の概要、意義と特徴
2. 従業員給付会計
3. 国際財務報告基準（IFRS）
4. 会計基準コンバージェンスの国際的動向
5. 日本における会計基準コンバージェンス
6. 有形固定資産会計
7. 投資不動産会計
8. 売却目的固定資産会計
9. 無形資産会計
10. 棚卸資産会計
11. 金融商品会計
12. 引当金会計
13. 偶発債権・債務会計
14. ストック・オプション等会計
15. 損益会計論（収益会計）

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、その内容について必要に応じて受講生の意見を求め、討議を行う。

達成目標：

- 前期：貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理が理解でき、会計手続きの最終段階である財務諸表を正式に作成できること。
- 後期：国際財務報告基準（IFRS）を理解し、日本におけるコンバージェンスの際の論点を把握し、IFRSがわが国会計実務へ与える影響を考察できるようになること。

評価方法：

レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点100%。なお、受講態度（講義への積極的取り組み・遅刻など）についても評価対象とする。

教科書：

- 上野清貴 『財務会計の基礎 第3版』 中央経済社 2013年、¥2,940
 菊谷正人編著 『IFRS・IAS徹底解説』 税務経理協会 2009年、¥3,150
 国際会計基準委員会財団 『国際財務報告基準（IFRS）2011』 中央経済社 2011年、¥15,750

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750201	環境アセスメント演習及び実習	1～2	2×2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：2時限連続、2カ年連続履修
通年	月	4・5	

授業のキーワード：

野外調査 文献調査 データ処理 報告

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施について報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらおう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらおう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらおう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成、プレゼンテーションができる。

評価方法：

データなどの報告書とプレゼンテーションの内容で評価する（100%）。

測定の方法、データ、データ処理結果、考察が報告できる…A

測定の方法、データが報告できる……………B

測定の方法とデータが報告できる……………C

Cのレベルに達しない……………D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

33,000円（試薬、器具などの消耗品代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750301	環境リスク管理演習及び実習	1～2	2×2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：2時限連続、2ヵ年連続履修
通年	木	3・4	

授業のキーワード：

環境リスク、生態系サービス、災害、景観生態学、GIS

授業のテーマ：

生態系サービスの維持と向上の視点に基づく環境リスク管理について深く議論し、修士論文等の執筆に向けた実践的指導を行う。

授業の概要：

各自のテーマ、関心によりテキストを選択し読み進める。また適宜関連文献のレビュー発表や調査研究についての指導を行う。なお本演習及び実習の受講に際しては、1年次での環境リスク管理基礎実習の受講を必須とする。

授業の計画：

(前期)

1. 前期に向けた導入、テキストの選択
- 2.～14. テキストの購読、レビュー発表、調査指導、データ分析指導
15. まとめ

(後期)

1. 前期内容の確認と後期に向けた導入
- 2.～12. テキストの購読、レビュー発表、調査指導、データ分析指導
- 13.～15. 研究計画書執筆指導

授業方法：

質疑応答による演習形式を基本とし、調査研究指導においては適宜実習形式をとる。

達成目標：

1年次においては環境リスク管理およびその周辺についての知識の涵養に努め、プレゼンテーションを含む研究のための様々な技能やノウハウを身につける。年次の終わりには自らの研究テーマを定め、研究計画書を書き上げる。

評価方法：

発表内容 (50%)、授業への貢献度 (50%)

教科書：

特に指定しない。各自が必要に応じて選択し、購入する。

参考文献：

演習時に適宜指定する。

実験・実習・教材費：

3,000円 (コピー代、消耗品代)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750401	環境リスク管理基礎実習	1	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード：

環境リスク、リモートセンシング、GIS、リスクコミュニケーション

授業のテーマ：

人間活動と自然環境の間で双方向に及ぼされる環境リスク問題について、その概念と分析・評価手法の基礎的事項を実習を通じ理解する。実習では衛星画像などのリモートセンシングデータや地理情報システム（GIS）を用いた地域分析の手法を修得する。さらには行政・企業・民間にわたるリスクコミュニケーションの促進に向けた、情報整備・伝達手法について理解する。

授業の概要：

衛星画像解析とGISの活用に焦点をあて、実習を進めていく。植生情報をおもに扱うが、必要があれば各々の研究テーマ等へのこれら手法の利活用についても考え、授業に取り入れていく。

授業の計画：

(前半)

1. 環境リスクの概念
2. 衛星画像解析の基本
3. 衛星画像による植生解析
4. 衛星画像による地形解析、裸地・崩壊地抽出
5. 衛星画像による災害情報の抽出

(後半)

6. GISの操作の基本（ArcGIS）
7. GISによる景観情報の分析
8. GISのリスク管理への適用
9. GISの情報公開・アカウントビリティへの適用

授業方法：

ソフトウェアの操作を主とする実習形式をとり、適宜課題を与える。また事例分析のための文献購読を交える。

達成目標：

環境リスク問題についての定量的アプローチの基本概念を理解し、専門的課題に対処できる衛星画像解析技術やGIS活用技術の基本を身につける。

評価方法：

レポート（70%）と授業への取り組み（30%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

- 今木洋大、『Quantum GIS入門』、古今書院、3,240円
 長澤良太・原慶太郎・金子正美、『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』、古今書院、4,860円
 モニカ G.ターナー・ロバート V.オニール・ロバート H. ガードナー、『景観生態学—生態学からの新しい景観理論とその応用』、文一総合出版、4,104円
 加藤正人、『森林リモートセンシング 第4版—基礎から応用まで』、日本林業調査会、3,240円

実験・実習・教材費：

30,000円（衛星画像データ購入費、消耗品費として使用）。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750501	環境分析化学演習及び実験	1～2	2×2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：2時限連続、2ヵ年連続履修
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

野外調査 文献調査 データ処理 報告

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施について報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成、プレゼンテーションができる。

評価方法：

データなどの報告書とプレゼンテーションの内容で評価する（100%）。

測定の方法、データ、データ処理結果、考察が報告できる… A

測定の方法、データが報告できる…………… B

測定の方法とデータが報告ができる…………… C

Cのレベルに達しない…………… D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

33,000円（試薬、器具などの消耗品代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760201	環境アセスメント特論	1・2	4	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード：

水俣病 火葬場 核融合 琵琶湖 総合開発 アセスメントの有効性

授業のテーマ：

現代社会で起こっている、様々の事業と環境との関わりを具体的に述べ、環境アセスメントの有効性について考察する。

授業の概要：

前期では水俣病について、総合的に講述し、今尚、続いている問題について考察する。後期では、火葬場設営、未来エネルギーと言われる、核融合などについて現在の取り組みについて講述する。

授業の計画：

(前期)		(後期)	
(1) 水俣病とは	①	(1) 琵琶湖総合開発と人工島	①
(2) 〃	②	(2) 〃	②
(3) 〃	③	(3) 火葬場建設	①
(4) 発端から原因の追及		(4) 〃	②
(5) 疫学的追及	①	(5) 〃	③
(6) 〃	②	(6) 核融合とエネルギー	①
(7) 病理学的追及	①	(7) 〃	②
(8) 〃	②	(8) 核融合と放射線	①
(9) 〃	③	(9) 〃	②
(10) 臨床学的追及	①	(10) 放射線	
(11) 〃	②	(11) 放射線の評価	
(12) 原因への接近	①	(12) 環境アセスメント	
(13) 〃	②	(13) 戦略的環境アセスメント	
(14) 推理の状況		(14) 環境アセスメントの有効性	
(15) 水俣病とその後		(15) まとめ	

授業方法：

基本的には講義形式で進める。資料は適宜配布する。

達成目標：

具体的な環境問題を解析し、どのようなアセスメントを行えば有効かを理解できるようにする。

評価方法：

期末試験100%

教科書：

なし。

参考文献：

適宜指示する。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760301	環境リスク管理特論	1・2	4	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード：

環境リスク、生態系サービス、災害、景観生態学、GIS

授業のテーマ：

生態系サービスを最大限活用し、災害リスクや生活上のリスクを回避、あるいは軽減するための環境リスク管理の理論と方策について、地域をはじめとする空間を「景観要素の不均一な場」としてとらえ、そのパターンとプロセスが生物ならびに生態系に与える影響を検討し適切な土地利用のあり方を提言する景観生態学の立場に基づき論ずる。

授業の概要：

前期は景観生態学の理論と分析手法について解説し、その環境保全や地域計画に果たすべき役割について考える。後期は山林から農村、都市部に至るリスク管理に向けた応用について、実例を交え解説する。

授業の計画：

(前期)	(後期)
1. 序論	1. 農業生態系におけるリスク管理
2. 景観生態学の概念と方法	2. 〃
3. 景観とスケール	3. 〃
4. 景観のパターン	4. 里山の生態系におけるリスク管理
5. 景観パターンの成因	5. 〃
6. 景観パターンの成因	6. 〃
7. 景観パターンの定量化	7. 河川生態系におけるリスク管理
8. 景観の攪乱動態	8. 〃
9. 生物と景観パターン	9. 〃
10. 景観における生態的プロセス	10. 都市生態系におけるリスク管理
11. データの取得と分析 (衛星画像)	11. 〃
12. 〃	12. 〃
13. 〃 (空中写真)	13. 自然再生のデザインと環境リスク管理
14. 〃 (地理情報システム)	14. 〃
15. 〃	15. 〃

授業方法：

通常の講義形式をとる。図表やスライド等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

景観生態学の理論に基づく環境リスク管理手法について理解し、将来における国土・土地利用管理のあり方を考え提言できる力を身につける。

評価方法：

期末試験 (60%) と授業への取り組み (40%) で評価する。

教科書：

森本幸裕編、『景観の生態史観—攪乱が再生する豊かな大地』、京都通信社、2,160円

参考文献：

森本幸裕・小林達明編、『最新 環境緑化工学』、朝倉書店、4,212円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760401	環境倫理特論	1・2	4	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	金/木	1/1	

授業のキーワード：

環境 存在 倫理 権利 疑似科学 持続性

授業のテーマ：

環境倫理学特有の問題系を把握し、その問題の解決の困難性の本質を考察する。特に環境問題の解決の妨げとなっている、実質的に何の意味もないかあるいは逆に悪化させる環境思想や取り組みを反省し、真に環境問題を解決すべき思想の条件を徹底して考察していく。

授業の概要：

前期においては環境倫理学の概要を把握し、問題の困難と深刻性について深い理解を得、また環境倫理学の方法についての理解を得る。後期においては、具体的な環境倫理学の方法、すなわち思弁と反省について、論理学や概念的思考などについて客観的厳密に確認し、また、環境思想の陥りやすいプリミティヴな思考を検証し、自ら考え、追究し得る能力を獲得する。

授業の計画：

前期

- 1～2 環境概念、自然概念の検証
- 3～4 生命概念の非科学性および倫理学の定義
- 5～6 環境学の使命と課題 疑似科学や逸脱による問題の深刻化
- 7～8 環境倫理学の諸説の概要 自然の権利など
- 9～10 自然の権利や世代間衡平の現実的な困難
- 11～12 権利概念の本質と環境倫理における限界 自己犠牲の可能性
- 13～14 自然観による環境破壊とその回復 哲学的思索の可能性
- 15 まとめ

後期

- 1～2 環境思想の概要と論理
- 3～4 論理的思考と概念的思考
- 5～6 理性の限界と宗教的思索など諸思想の施策
- 7～8 自然概念に関する諸思想 ハンス・ヨナスなど
- 9～10 ハンス・ヨナスと責任という原理 ハーバマスによる科学技術の批判
- 11～12 イデオロギーとしての科学技術 ガイア思想による科学技術批判
- 13～14 宗教および科学における諸環境思想と疑似科学思想の危険
- 15 まとめ

授業方法：

講義を行い適宜レポートを課す

達成目標：

自ら環境倫理学の議論を行う能力の獲得

評価方法：

レポート試験

教科書：

特になし

参考文献：

適宜指示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760901	環境分析化学特論	1・2	4	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

機器分析 分光分析 クロマトグラフ分析 電位差分析

授業のテーマ：

環境試料中の化学成分を測定するために分析機器が用いられることが多い。分析機器を利用する場合、使用方法は比較的短期間で習得することができる。しかし、その原理を理解しようとすると、化学だけでなく物理学の知識も必要になるため、それほど容易ではない。本講義では機器分析のうち、光と物質の相互作用を利用する分析法である分光分析法と、物質の電気的性質を利用した分析法であるイオンクロマトグラフ法と電位差分析法を取り上げて、その原理を紹介する。

授業の概要：

分光分析の基礎となる光と物質の相互作用について解説したあとで、代表的ないくつかの分光分析法を紹介する。

イオンクロマトグラフ法については原理と実際の測定例を示す。

電位差分析についてはその原理である酸化還元電位について説明した後、この分析法の代表的なものであるpHメーターについて説明する。

授業の計画：

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 元素と原子 | 16. 原子吸光分析(1) 測定原理 |
| 2. 原子の構造 | 17. 原子吸光分析(2) 機器の概要 |
| 3. 原子オービタル | 18. 原子吸光分析(3) 測定例 |
| 4. 原子オービタルと電子配置 | 19. 発光分光分析 測定原理と機器の概要 |
| 5. 電子配置と元素の周期性 | 20. 蛍光分析(1) 測定原理 |
| 6. 最外殻電子と原子の電子式 | 21. 蛍光分析(2) 機器の概要 |
| 7. 光子の波長とエネルギー | 22. 蛍光分析(3) 測定例 |
| 8. 光子と物質の相互作用 | 23. 赤外吸収法(1) 分子の運動 |
| 9. 吸光光度法 | 24. 赤外吸収法(2) 分子の運動と光の相互作用 |
| 10. 検量線を利用した濃度の算出 | 25. 赤外吸収法(3) TOC計の測定原理 |
| 11. ランベルト・ベールの法則(1) | 26. イオンクロマトグラフ分析 |
| 12. ランベルト・ベールの法則(2) | 27. 酸化還元電位 |
| 13. 分光光度計(1) | 28. 電位差分析 |
| 14. 分光光度計(2) | 29. pHメーター |
| 15. まとめ(1) | 30. まとめ(2) |

授業方法：

配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。講義の最後にも当日の理解度を確認するための小テストを行う。

達成目標：

・代表的な分析機器の概要と測定対象、測定の原理がわかる。

評価方法：

期末試験（100％）による。

代表的な分析機器の概要と測定対象がわかる。測定の原理がわかる。… A

代表的な分析機器の測定対象と概要がわかる。…………… B

代表的な分析機器の測定対象がわかる。…………… C

Cのレベルに達しない…………… D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770101	臨床心理査定演習	4	1	高橋昇・坪井・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	5	

授業のキーワード：

心理査定 投映法 知能検査 心理検査

授業のテーマ：

臨床心理士として必要不可欠な臨床心理査定の実際を学びます。特に、病院や精神科クリニック等の病院心理臨床現場において通用する心理査定の技法とその実施方法を習得します。

授業の概要：

臨床場面で実際に臨床心理査定が実施できるよう、各種心理検査の教育・訓練を行います。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～3 投映法について（ロールシャッハ法テスト体験を含む）
- 4～14 ロールシャッハ法を中心とした投映法の実際（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

<後期>

- 1～5 知能検査（実施方法・分析・解釈等）
- 6～10 発達検査（実施方法・分析・解釈等）
- 11～14 その他の心理検査（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

授業方法：

講義および演習・実習（テスト体験・テスター体験含む）形式で行います。臨床心理査定を本当に自分のものとして習得できるか否かは、各自の主体性にかかっていますので、積極的な学習意欲に期待します。

達成目標：

臨床心理士の基本的姿勢と倫理について学ぶとともに、総合的、臨場的な見立てと対処方法など、臨床現場で役立つ具体的な臨床心理査定の習得を目指します。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびテスト体験・テスター体験レポートを含む各種レポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

ロールシャッハ法テキストは大学院でまとめて購入します。詳細は授業の中で説明します。

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770301	臨床心理基礎実習	1	2	高橋昇・三後・坂本
期間	曜日	時限	備考 ：3時間連続	
通年	金	3・4		

授業のキーワード：

臨床心理士 心理療法 心理面接 遊戯療法 箱庭療法

授業のテーマ：

心理面接を行うために必要な基本的態度や倫理について学び、面接の技法を体験的に理解します。
また、遊戯療法や箱庭療法の観察・実習を通して各技法の基本を理解することをねらいとします。

授業の概要：

前半は臨床心理士としての基本について学び、後半はロールプレイ等によりセラピストとしての基本的態度の涵養をはかります。

授業の計画：

<前期>

- ① オリエンテーション
- ② 心理臨床に関する倫理について
- ③ 心理臨床に関する関連法規について
- ④ 心理面接を行う基本的態度・初回面接・事例研究について
- ⑤ ロールプレイの基礎（ビデオ視聴・紙上応答訓練）
- ⑥～⑨ ロールプレイ（実習）

*カンファレンス（M2と合同）4～7月第Ⅱ金曜日 計4回

*定例授業時間外に実施（授業2回分に相当）

・見学実習（精神科病院・クリニック・私設心理相談室・児童相談所・適応センター等）

・遊戯療法観察（人間環境大学附属心理相談室）

<後期>

- ① 遊戯療法観察事例の検討
- ② 「来談者中心療法」ビデオ視聴と検討
- ③～⑥ 箱庭（事例の提示・実習）
- ⑦～⑨ 事例検討（院生担当事例について）

*カンファレンス（M2と合同）9～3月第Ⅱ金曜日 計5回（1, 2月除く）

*定例授業時間外に実施（授業1回分に相当）

・見学実習（情緒障害児短期治療施設・青少年相談センター等）

授業方法：

基本的事項については講義を行います。演習・実習が基本となります。

達成目標：

臨床心理士としての基本を身につけることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

なし

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

30,000円（実習教育・教材費および消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770401	臨床心理実習	2	2	渡辺・坪井・高橋蔵
期間	曜日	時限	備考：3時間連続	
通年	金	3・4		

授業のキーワード：

臨床心理実践、臨床心理学的援助、臨床心理学的査定、心理療法、カウンセリング

授業のテーマ：

臨床心理士として現場で働くために必要な、一人一人のクライアント（患者）に即した、臨床心理学的査定（見立て、診断、方針）と臨床心理学的援助方法（カウンセリング・心理療法）とを、実際のケースを通して学び、習得する。

授業の概要：

院生は、本学附属臨床心理相談室及び学外実習施設においてケースを担当すると共に、毎回レポートを作成し、同時に、授業において担当ケースを報告することで、教員による指導、教育、スーパービジョンを受ける。

授業の計画：

大学院教員及び本学附属臨床心理相談室スタッフによる指導、教育、スーパービジョンに基づき、本学附属臨床心理相談室において、実際の事例を学生に担当、実習させ、事例の心理面接・心理査定・カウンセリング（心理療法）について、臨床的な指導、教育を行なう。また、精神病院・精神科クリニック・情緒障害児短期治療施設・小中学校など学外実習施設において、本学学外講師の指導、教育、スーパービジョンの下に、事例を担当、実習させて、その臨床的な指導、教育を行なう。

授業方法：

院生は、本学附属臨床心理相談室、及び精神科病院、クリニック、児童施設等でさまざまなクライアント（患者）を実際に担当し、臨床心理学的面接、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助（カウンセリング・心理療法）を実習すると共に、学内授業では毎回院生に担当しているクライアント（患者）についての事例報告をさせ、グループスーパービジョンによる臨床的、実践的な指導、教育を行なう。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

実習実践態度（50%）、授業への取り組み（30%）、レポート評価（20%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000円（病院実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770201	心理学特別演習	1～2	2×2	渡辺・高橋昇・ 坪井・高橋蔵・三後
期間	曜日	時限	備考 ：2ヵ年連続履修	
通年	水	3		

授業のキーワード：

臨床心理学、研究方法、修士論文

授業のテーマ：

大学院における講義、及び臨床心理学実習、演習から得た知見を、心理学の先行研究を踏まえながら、文献的、理論的、臨床的な、臨床心理学的研究、考察の訓練を行ない、最終的には修士論文としてまとめることを目的とする。

授業の概要：

院生が自身の研究内容を発表、報告し、担当教員全員による指導を受ける。

授業の計画：

1年次前期末には院生の研究テーマを考慮しながら、教員合議の上、研究科委員会に諮って研究指導教員を決定する。院生は、研究指導教員の指導を受けて研究テーマを定め、深化させ、修士論文へと集約させる。本演習においては、研究指導教員以外の教員や他院生との共同討議を積極的に進め、自己の研究の広がりや深まりを図り、院生が研究の多様な可能性に対して開眼し成長するように指導する。

授業方法：

院生は、大学院におけるさまざまな講義、及び「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」、そしてケース担当による臨床心理実践などから得た知見を、心理学、臨床心理学の多様な理論と照合せながら、担当教員の指導、教育を受けると共に、他の教員が全員出席する集団討議の場で研究を発表し、自身の研究テーマを探り、修士論文としてまとめていく。

達成目標：

臨床心理学徒としての研究論文の作成。

評価方法：

研究発表とその内容（50%）、授業への取り組み（50%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780101	臨床心理学特論	1	4	渡辺雄三

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード：

臨床心理学、臨床心理士、心理療法、クライアント

授業のテーマ：

「いかにクライアントを理解し、手助けするか」を基本テーマとして、臨床心理士として必要不可欠な臨床心理学の理論と方法を学ぶ。精神病院や精神科クリニック等の病院心理臨床を始めとして、さまざまな臨床現場において通用する、心理面接・心理療法・心理査定理論と技法とを学習する。また臨床心理士の基本的な臨床姿勢と倫理についても学ぶ。

授業の概要：

「臨床心理学の方法」すなわち、臨床心理士はいかにクライアントを理解し、クライアントの手助けをするかについて、1) 臨床心理学という学問の方法、2) 臨床心理学による見立ての方法、3) 臨床心理学による手助けの方法（心理療法）、の構成によって授業を進める。

授業の計画：

担当教員の執筆による教科書『私説・臨床心理学の方法』に沿って、また適宜担当教員の著書や研究論文を紹介しながら、臨床的、実践的な臨床心理学の理論と技法を学ぶ。

授業は次の計画によって進められる。

前期	後期
1回～2回 第1章「臨床心理学の原則」	1回～3回 第8章「手助けの方針を決め、クライアントに伝え、合意する」
3回～5回 第2章「臨床心理学がクライアントを理解する視点と方法」	4回～5回 第9章「クライアントにかかわる」
6回～7回 第3章「臨床心理学の見方、考え方」	6回～7回 第10章「クライアントにかかわりながら考え続ける」
8回～9回 第4章「クライアントに会う」	8回～10回 第11章「クライアントの自己理解と自己修復を助ける」
10回～11回 第5章「クライアントを理解する」	11回～13回 第12章「心理療法における「こころ・からだ」の作業」
12回～13回 第6章「クライアントを査定する」	14回～15回 第13章「クライアントと共に歩き続ける」
14回～15回 第7章「病態水準論」	

授業方法：

上記の授業計画に沿って、講義し、臨床心理士として必要な基本的な臨床心理学の理論、技法、臨床姿勢、倫理等について学び、自由に相互討論する。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

授業への取り組み（70%）とレポートによる評価（30%）。

教科書：

渡辺雄三『私説・臨床心理学の方法』（金剛出版）（5,800円）

参考文献：

- 渡辺雄三『病院における心理療法』（金剛出版）
- 渡辺雄三『夢分析による心理療法』（金剛出版）
- 渡辺雄三『夢が語るこころの深み』（岩波書店）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780201	臨床心理面接特論	1	4	坪井・高橋蔵

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

心理療法、人格変容、事例研究

授業のテーマ：

臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度への理解を深め、心理療法を通しての人格変容の実際に触れることにより、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。また、心理療法の各種理論とそれに基づく実践について学び、それぞれの特徴について理解していく。

授業の概要：

心理療法に関する各種理論の基本的概念について学び、担当教員の事例や専門誌掲載の公表事例を検討することにより、理論が実践にどのように生かされるかについて理解を深める。

授業の計画：

- 前期 ① オリエンテーション、臨床心理面接を行う基本的態度・倫理について
 ②～④ 来談者中心療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤～⑦ 遊戯療法～基本的概念と事例の検討
 ⑧～⑩ 箱庭療法～基本的概念と事例の検討
 ⑪⑫ 親面接～基本的考え方と事例の検討
 ⑬⑭ 学校での心理面接～基本的考え方と事例の検討
 ⑮ 前期のまとめ
- 後期 ①～③ 精神分析的な心理療法～基本的概念と事例の検討
 ④～⑥ ユング派心理療法～基本的概念と事例の検討
 ⑦～⑧ 家族療法～基本的概念と事例の検討
 ⑨～⑪ (認知) 行動療法～基本的概念と事例の検討
 ⑫～⑭ 日本の心理療法～基本的概念と事例の検討
 ⑮ 全体のまとめ

授業方法：

講義および演習方式で行う。各項について報告者がレジюмеを作成、発表し、全員で討議する。

達成目標：

各種心理療法についての特徴を学び、それらに通底する臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度について理解する。

評価方法：

授業への取り組み (50%) およびレポート (50%) によって総合的に評価する。

教科書：

なし

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780301	臨床心理査定特論	1・2	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード：

心理査定、見立て、人格理解、病態水準

授業のテーマ：

臨床心理査定についての基礎から臨床実践的な使用方法に至るまでの習得を目標とします。査定は心理療法と切り離すことのできない技法であり、その理解と実践力は臨床的な力ともなります。基礎的な施行法や分析法と共に、病態水準の診断、人格や知性の判断、感情や対人関係の在り方などの解釈をめぐって検討を行っていきます。

授業の概要：

査定や見立ての基礎的な理論を習得することから始めて、質問紙法や投映法の理論的な背景を考え、臨床実践的な技法を理解することに繋げていくことになります。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 査定と見立て
- 4～6. 心理検査の理論と概要
7. 人格検査について
8. 人格検査施行（1）
9. 人格検査分析と解釈
10. 事例検討（1）
11. 人格検査施行（2）、分析と解釈
12. テストバッテリーについて
- 13～14. 事例検討（2）
15. まとめ

授業方法：

まずいくつかの基礎的な論文を購読する。そして徐々に実践的な心理アセスメントを体験しながら、各技法の特徴や解釈法を身につけるための学習を行います。それと併行して臨床実践の中でどのように使用されるのかを概説し、議論していきます。

達成目標：

臨床心理査定を学び、概論から臨床実践までの理解をすることが目標となります。

評価方法：

平常点（出席状況および受講態度）50%とレポート（50%）によって総合的に評価します。積極的に発言することが求められ、特に遅刻・欠席は厳しい評価になります。

教科書：

特にありません。

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780401	心理療法特論	1・2	2	小泉規実男

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード：

「精神分析療法的心理療法の実践」「治療者の自由連想（もの思う）能力」「生きた交流・死んだ交流」

授業のテーマ：

精神分析は、情緒的欲求を満たさない治療構造の下、過去の過酷な全体状況が転移・逆転移という舞台上に再燃されるよう設えられた特殊療法である。統制された治療退行状況の中で外傷の対象関係を直に扱える深さは、危うさと両刃の剣である。ここでは技法論や概念には深入りせず、分析的療法で再燃される過去の全体状況を理解することを通じて、治療者のもの思う能力・生きた交流の促進に寄与したい。

授業の概要：

毎回、講師による精神分析的臨床実践例を提示する。受講生は、来談者の乳幼児的世界や内的体験を理解するために、自身の内的体験と重ね合わせ、浮かび上がる連想に耳を傾けることになるであろう。それを言語化する作業には心の痛手を伴うが、できる限りありのままに自己観察し、言語化して頂く。

授業の計画：

講師は研究者ではなく一臨床家である。臨床実践を通して体験してきたことを自分なりの実感と言葉で伝えることしかできない。勿論、講師の臨床のバックボーンには精神分析があり、可能な限り精神分析的たらんと日々の臨床を続けている。しかし、精神分析的療法は特殊療法であり、院生などの初学者が精神分析的療法を実践することは実際的ではなく、「乱暴な分析」（フロイト）に陥る危険性が高い。

従って、この授業では精神分析的技法論や概念装置は、「プロセスノートの取り方」「初回面接」「初回夢」「最早期記憶」「中核葛藤テーマ」「転移と逆転移」「投影同一化」「治療構造論」など、分析的経過を理解するために必要な最小限度の理論に限って説明するに留めるつもりである。またW.R.ビオンの、精神分析的態度としての「欲望なく・理解なく・記憶なく」なども紹介する。

その上で、あるいはそれと並行して、講師が実践してきたアルコール依存症とその家族に対する精神分析的アプローチや開業心理臨床の実際、更に神経症や自己愛構造体などの人格障害圏の6名の来談者（患者）との精神分析的な心理療法の実践について詳細な経過を提示する。

受講生はその報告を聞きながら自分の中で浮かんでくる連想に心の耳を澄ませ、自身の内的体験を重ねることで共感しようとする内的な営みを、自己観察し、言語化していただく。

それを授業のたびに、授業当日の内にメールにてレポート提出していただく。

授業方法：

授業は円卓にて行う。講師が事例提示する際にはレジユメを用意するが、未発表の事例に関しては、レジユメをその都度回収する。

達成目標：

精神分析療法的心理療法例に触れることを通じて、「治療者の自由連想（もの思う）能力」や「生きた交流・死んだ交流」について体験的に学びたい。

評価方法：

8割以上の出席率を最低条件とし、「授業への取り組み」20%・「毎回授業後に提出して貰うレポートの内容」80%によって評価する。期末のレポート提出や試験は行わない。

教科書：

教科書は特にないが、最小限、以下の参考文献程度の基礎的な知識は持って臨まれないと、勿体ない。

参考文献：

- 小此木啓吾著『対象喪失』1979,中公新書、680円＋税
- 松木邦裕著『対象関係論を学ぶ』1996,岩崎学術出版社、3,240円＋税
- ベルトラン・クラメール著『ママと赤ちゃんの心理療法』1994,朝日新聞社、2,000円＋税
- 渡辺久子著『母子臨床と世代間伝達』2000、金剛出版、3,600円＋税

実験・実習・教材費：

特になし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781701	投映法特論	2	2	森田美弥子

期間	曜日	時限	備考：集中講義日8月17日・18日・19日、予備日9月3日
前期	集中		

授業のキーワード：

ロールシャッハ法、投映法による人間理解、臨床心理査定

授業のテーマ：

ロールシャッハ法を用いて、投映法による人間理解について学ぶ。

投映法は、臨床心理査定の「技法」と同時に、半構造化面接のような特徴ももっている。検査実施場面でのすべての行動は分析・解釈に役立つものである。被検査者がそこで何を体験しているか考えながら、査定の作業を進めていく必要がある。

授業の概要：

ロールシャッハ法の分析・解釈について、従来の解釈仮説など理論的背景を概観し、実例の検討を行う。名古屋大学式ロールシャッハ法を中心に扱うが、ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでの基礎は、どの技法でもよいので身につけていることを前提とする。

授業の計画：

第1日目：量的分析

- ・各スコアの解釈仮説。スコアリングの留意点。
- ・数量指標の意味。カテゴリーごとの特徴把握。
- ・名大式ロールシャッハ法について。
- ・「感情カテゴリー」と「思考・言語カテゴリー」

第2日目：質的分析

- ・継列分析のポイント。
- ・カード特性。
- ・事例検討①
- ・実施方法および記録の仕方。

第3日目：実践的活用

- ・総合的解釈。水準の見立て。パーソナリティの記述。
- ・事例検討②
- ・フィードバックの仕方。
- ・まとめ。

授業方法：

主として前半は配布資料にもとづく講義を中心に進めるが、受講生自身が考え全体で討議する時間をとる。後半に事例検討を行う。受講生が実施したロールシャッハ法を発表し、全員で検討する。（あらかじめ発表者を決めて準備をしておいてください）

達成目標：

単なる知識や技術の習得ではなく、ロールシャッハ法などの臨床心理査定技法の背景にある意味を理解することを目指す。

評価方法：

授業への関与度（出席および発言など）…60%、レポート…40%

教科書：

使用しない。

参考文献：

- 名古屋ロールシャッハ研究会：編『ロールシャッハ法解説－名古屋大学式技法－』2,400円
 森田ほか『実践ロールシャッハ法－思考・言語カテゴリーの臨床的適用』ナカニシヤ出版 2,520円
 松本・森田・小川：編『児童・青年期臨床に生きるロールシャッハ法』金子書房 3,500円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780501	グループ・アプローチ特論	1・2	2	伊藤義美

期間	曜日	時限	備考：集中講義日12月22日・23日・24日、予備日12月25日
後期	集中		

授業のキーワード：

グループ・アプローチ、パーソンセンタード・エンカウンター・グループ、グループ・プロセス、グループ・アウトカム（効果）

授業のテーマ：

小グループやグループ状況を活用する心理臨床のグループ・アプローチは、心理治療、心理的成長、教育・研修、訓練に用いられる。グループ・アプローチの種類と特徴、グループのプロセスとアウトカム（効果）、グループ・ファシリテーション、研究方法と研究成果などを学ぶ。

授業の概要：

パーソンセンタード・エンカウンターグループ（PCEG）などのエンカウンター・グループと集団心理療法についてその特徴や意義、方法、グループ・プロセス、グループ効果、様々なグループ実践の展開と諸問題を明らかにする。

授業の計画：

1. グループ・アプローチの定義と種類を概説する。
2. グループ・アプローチの歴史と現状を概説する。
3. グループ・アプローチの立場と理論(1)を解説する。
4. グループ・アプローチの立場と理論(2)を解説する。
5. グループ・アプローチの実際(1)について紹介・解説する。
6. グループ・アプローチの実際(2)について紹介・解説する。
7. グループ・アプローチの実践事例(1)の理解を深める。
8. グループ・アプローチの実践事例(2)の理解を深める。
9. グループ・アプローチの体験学習(1)を行う。
10. グループ・アプローチの体験学習(2)を行う。
11. グループ・アプローチの研究(1)について紹介・解説する
12. グループ・アプローチの研究(2)について紹介・解説する。
13. グループ・アプローチの教育・訓練について紹介・解説する。
14. グループ・アプローチの課題と・倫理について解説する。
15. グループ・アプローチの発展と可能性について考える。

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて配布資料の解説、ビデオとDVDの視聴、グループ事例の検討、グループ体験学習、全体討論などを行ってグループ・アプローチの理解を深める。

達成目標：

グループ・アプローチに関して基本的な理論と実際についての理解を深める。

評価方法：

平常点…50%、レポート…50%

教科書：

伊藤義美編著、『パーソンセンタード・エンカウンターグループ』、ナカニシヤ出版、2,940円

参考文献：

伊藤義美編著、『ヒューマニスティック・グループ・アプローチ』、ナカニシヤ出版、2,310円

実験・実習・教材費：

特に必要としない。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780801	心理学研究法特論	1	2	吉武久美

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード：

標準偏差、相関係数、ノンパラメトリック検定、カイ2乗検定、行動観察

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。

授業の概要：

調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、仮想データを用い統計量の算出を行う。授業時間内の学習のみでなく、復習を中心とした自主的な学習が要求される。

授業の計画：

第1回	ガイダンス データについて	第9回	度数についての検定①
第2回	心理学研究法における測定	第10回	度数についての検定②
第3回	平均値と標準偏差	第11回	度数についての検定③
第4回	2変数の相関 相関関係	第12回	順位についての検定
第5回	2変数の相関①	第13回	まとめ② 第9回～第12回
第6回	2変数の相関②	第14回	質問紙調査
第7回	2変数の相関③	第15回	行動観察と全体まとめ
第8回	まとめ① 第1回～第7回		

授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。関数電卓は用いるため、毎時間携帯すること。授業内で小テストを実施する。また、授業時間以外にも課題を課すことがある。

達成目標：

修士論文作成に必要な心理統計の基礎知識とデータ解析方法の習得を目標とする。ExcelやSPSSを使ったデータ処理法の習熟も目指してほしい。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する

教科書：

田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円
関数電卓（統計計算のできるもの）

参考文献：

授業内で適宜、紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780901	学習心理学特論	1・2	2	吉武久美

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード：

学習、条件づけ、認知的学習、社会的学習

授業のテーマ：

ヒトの行動の多くは、生得的なものではなく、経験を通じて学習されたものといえる。人間行動理解のために不可欠である学習過程を代表的な理論や研究結果を通して理解し、学習という心的過程のメカニズムについて考える。

授業の概要：

動物の学習といった古典的学習から、教授学習に関わる学習過程まで幅広く、「学習」に関する心理学的知見を紹介する。

授業の計画：

第1回	イントロダクション	学習心理学とは	第9回	記憶の過程
第2回	ヒトと動物の生得的行動		第10回	記憶と忘却
第3回	古典的条件づけ	基本原理	第11回	動機づけ
第4回	古典的条件づけ	消去と般化	第12回	社会的学習 模倣の理論
第5回	オペラント条件づけ	基本原理	第13回	社会的学習 観察学習
第6回	オペラント条件づけ	強化	第14回	技能の学習
第7回	オペラント条件づけ	強化スケジュール	第15回	メタ認知とまとめ
第8回	学習方法			

授業方法：

配布資料とパワーポイントを用いて、授業を進める。授業内容と関連した小レポートの提出を求めることがある。

達成目標：

行動主義的知見だけでなく、認知主義的知見まで、学習に関する心理学的知見を幅広く得ることを目標とする。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、期末試験の結果（70%）、小レポート（30%）で評価する。

教科書：

なし

参考文献：

実森正子・中島定彦共著・『コンパクト新心理学ライブラリ2学習の心理』サイエンス社1,500円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781001	比較行動学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：集中講義日8月17日・18日・19日、予備日9月3日
前期	集中		

授業のキーワード：

比較行動学、比較心理学、動機づけ、系統発生、適応

授業のテーマ：

ヒトと動物の動機づけ過程を取り上げ、その適応的意義について種間比較の観点から検討するとともに、行動発現のメカニズムを解説していく。さらに、またヒトの生活場面（特に学習と教育）における動機づけの問題についても、研究例をあげながら考えていく。

授業の概要：

比較行動学と比較心理学の基礎知識を確認し、ヒトとそれ以外の動物種（特に哺乳類動物）の比較という観点から動機づけの過程を俯瞰し、ヒトという種の独自性を理解していく。

授業の計画：

- 第1回 行動研究における種間比較
- 第2回 動機づけの分類
- 第3回 ホメオスタシス
- 第4回 生理的欲求における生得性
- 第5回 内発的動機（好奇動機）
- 第6回 内発的動機（操作動機）
- 第7回 社会的動機（生殖と哺育）
- 第8回 社会的動機（攻撃）
- 第9回 学習性の動機（条件性恐怖）
- 第10回 学習性の動機（学習性無力感）
- 第11回 動機づけと自律神経系のはたらき
- 第12回 動機づけと報酬系のはたらき
- 第13回 動機づけと情動
- 第14回 生活場面における動機づけの問題①
- 第15回 生活場面における動機づけの問題②

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。

達成目標：

比較行動学の基礎知識を習得することに加え、心理学的な観点（個体発生）のみでなく、行動学的観点（系統発生）からヒトや動物の動機づけ過程を理解できるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781101	産業・組織心理学特論	1・2	2	高木浩人

期間	曜日	時限	備考：集中講義日8月27日・28日・29日、予備日9月3日
前期	集中		

授業のキーワード：

仕事への動機づけ、職場の人間関係、リーダーシップ、ストレスとサポート、キャリア

授業のテーマ：

産業・組織心理学の重要テーマである、動機づけ、人事、リーダーシップ、キャリアなどについて理解を深める

授業の概要：

産業・組織心理学の重要概念について知るとともに、自らの生活に引き寄せて理解することで、この学問領域のもつ意味について考える。

授業の計画：

1. 産業・組織心理学の概要
2. 仕事への動機づけ
3. 人事評価制度
4. 人事測定の方法
5. 職場の人間関係と意思決定
6. 職場集団におけるリーダーシップ
7. 職場のストレスとサポート
8. 組織における協力と葛藤
9. キャリア発達を促進する支援
10. 売り手と買い手の心理学

授業方法：

各章について発表者がレジюмеを作成、配布して発表する。他の受講者は発表内容について議論する。必要に応じて担当者が解説する。それに加えて、測定尺度への回答、回答結果についての考察、シミュレーションゲーム等を実施し、理解を深める。

達成目標：

産業・組織心理学の領域で、これまでにどのようなことが研究されてきており、現代社会においてどのような意味をもっているのかについて理解すること。

評価方法：

授業時の発表50%、参加態度30%、授業時に提出するコメント20%

教科書：

田中堅一郎編 『産業・組織心理学エッセンシャルズ【改訂三版】』 ナカニシヤ出版 ¥3,024
 事前に教科書を購入し、受講者の間で担当箇所を決め、レジюме（1章あたりA3で3～4枚程度）を作成、授業時に配布、発表してください。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781201	人間関係特論	1・2	2	五十嵐祐

期間	曜日	時限	備考：集中講義日8月24日・25日・26日、予備日9月3日
前期	集中		

授業のキーワード：

不平等 健康 社会関係資本

授業のテーマ：

個人の身体的・精神的な健康は、遺伝的な側面のみならず、環境的な側面にも大きく影響を受ける。その代表的な要因として、近年、社会的不平等が注目されている。この授業では、社会的不平等が健康に影響を与えるメカニズムの理解を目指す。

授業の概要：

テキストを精読し、社会的不平等が健康に影響を与えるメカニズムを多面的に理解する。

授業の計画：

以下の9章を15回に分けて精読する。

- 第1章 経済目標と「人類永久の問題」
- 第2章 繁栄と幸福
- 第3章 繁栄と健康
- 第4章 隣に負けるな
- 第5章 不平等—私たちの私的および公的な代償
- 第6章 快楽の踏み車に足をかけて
- 第7章 消費による社会へのつけ
- 第8章 政治と健康
- 第9章 結論

授業方法：

課題テキストを精読する。受講生は、レポーターとコメンテーターの役割を1回以上担当する（担当については、事前に割り振りを行う）。レポーターは、担当章の要点をレジュメにまとめ、コメンテーターは、議論のきっかけとなるコメントを複数考えてくる。なお、受講人数に応じて、1名が複数回の担当となることや、逆に複数名で各回を担当することがある。レポーター・コメンテーター以外の受講生も、議論への積極的な参加が求められる。

達成目標：

社会的不平等と健康との関連が、どのようなメカニズムによって構築されてきたのかを理解する。また、現実の社会場面におけるさまざまな現象の解釈において、経験則から理解するのではなく、本授業で学んだ内容を発展的に応用して理解できることを目指す。

評価方法：

レポーター・コメンテーターとしての役割（40%）、議論への参加度（30%）、最終レポート（30%）によって総合的に評価する。

教科書：

イチロー カワチ, ブルース・P. ケネディ (2004). 不平等が健康を損なう 日本評論社 ¥2,592 ISBN: 4535982376

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781401	心身医学特論	1・2	2	総田純次
期間	曜日	時限	備考 ：集中講義日8月20日・21日・22日、予備日9月3日	
前期	集中			

授業のキーワード：

ケースマネジメント、非構造的面接、ストレス概念

授業のテーマ：

心身医学は、一般医学と精神科ないし臨床心理学、身体と心に跨る学際的な医学領域であり、一般医による生物学的治療と精神科医や臨床心理士による心理学的アプローチが同時に並行することが多い。そのために、1) ケースマネジメントのための他専門職との連携、2) 構造化の弱い状況での心理療法的関わりが要求されることになる。こうした経験は翻って、スクールカウンセリング、学生相談、企業のメンタルヘルスなど、現在臨床心理士のニーズが高まりつつある多彩な領域での心理療法的関わりを学習するうえでよいモデルとなろう。

授業の概要：

心身医学の概念・歴史について講義の形で概説した後、事例を通じて心身医学領域での心理療法的関わりを学習する。素材として、1) バリントによる一般開業医向けの心理療法セミナー、2) 下坂幸三による過食症の初回家族面接のDVDなどを予定しており、積極的に視聴覚資料を用いる。

授業の計画：

第1日目午前：授業の狙いを解説した後、授業担当者による消化性潰瘍の研究の展望論文を材料にして、1) 心身症の諸概念を学習する（心身症の概念、ストレス、タイプA、ライフイベントなどの基礎的概念）。

第1日目午後：2) 心身医学領域での研究の変遷を辿ることで、心理学的研究法の概観を得る（修士課程の研究の参考にもなる）。そのあとケースのマネジメントとサイコセラピーについて概説する。

第2日目：M.バリント『プライマリ・ケアにおける心身医学』の事例を用いて、構造化の弱い状況での心理療法的関わり（ケースマネジメント、連携、心理療法）を議論する。

第3日目午前：下坂幸三による過食症初回家族面接のDVDを用いて、1) 日常的な心理療法のあり方、2) 身体症状の取り扱い方、3) 家族力動の見方などを議論する。

第3日目午後：他の視聴覚資料を用いてケースマネジメントについて議論する（候補：リネハンによる境界性パーソナリティ障害の弁証法的行動療法のビデオ）。
全体のまとめ。

授業方法：

講義は心身医学の概説に関する部分のみで、あとは事例や視聴覚資料を通じて参加者で討議する。討議のプロトコールを作成する。また効率化のために事前に配布する資料を読んでもらうこと。

達成目標：

①心身医学の最低限の諸概念（心身症、ストレス、タイプAなどの概念）を学習すること、②心身医学の研究の歴史的展望を通じて、心理学的研究法を概観すること、③心身医学領域での心理療法的関わりを通じて、事例のマネジメントを学習すること。

評価方法：

出席や討論、発表の日常点=70点、レポート=30点

教科書：

とくになし。資料は配布する（場合によっては事前配布）。

参考文献：

M.バリント、池見酉次郎『プライマリ・ケアにおける心身医学』（診断と治療社）（入手困難）
下坂幸三『アノレキシア・ネルボーザ論考』金剛出版、同『摂食障害治療のコツ』金剛出版

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781501	障害者心理学特論	1・2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード：

知的障害 身体障害 発達障害 特別支援教育

授業のテーマ：

近年、法律の改正により対応が急務とされている障害児者について、社会的な状況をふまえた上で、それぞれの障害の特徴を理解することを目的とします。事例を通して検討を行い、適応上の問題と障害児者の家族への支援のあり方についても学びます。

授業の概要：

様々な障害の特徴と心理的援助について具体的に学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 障害児者の歴史
3. 障害児者に関わる法律
4. 特別支援教育とは
5. 知的障害
6. 身体障害
7. 自閉症スペクトラム
8. 学習障害
9. AD/HD
- 10～14 事例検討
15. まとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分について調べたことをもとに、レジュメを作成し、順番に発表し検討していきます。視聴覚教材を用いる場合もあります。

達成目標：

それぞれの障害の特徴と心理的特性、発達上の諸問題を理解することを目的とします。

評価方法：

課題への取り組みおよび発表内容（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

なし

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781601	心理統計法特論	1・2	2	谷伊織

期間	曜日	時限	備考：集中講義日8月31日・9月1日・2日、予備日9月3日
前期	集中		

授業のキーワード：

データ解析、論文読解、質問紙法、多変量解析

授業のテーマ：

心理学の研究を計画・遂行する上で、一連の統計的な手続きを理解することはきわめて重要である。この授業では、心理学で必要とされる一連の統計技法を理解することを目的とする。

授業の概要：

実際に雑誌に掲載されている論文のなかで使用されている統計手法を解説する。また、コンピュータを用いてフリーの統計ソフトウェアであるRおよびHADによる統計処理の作業を体験する。

授業の計画：

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 分析手法を組み合わせて結果を導く 1 |
| 2. 統計処理で陥りがちな問題点 1 | 10. 分析手法を組み合わせて結果を導く 2 |
| 3. 統計処理で陥りがちな問題点 2 | 11. 分析手法を組み合わせて結果を導く 3 |
| 4. 統計処理で陥りがちな問題点 3 | 12. 分析手法を組み合わせて結果を導く 4 |
| 5. 統計処理で陥りがちな問題点 4 | 13. 分析手法を組み合わせて結果を導く 5 |
| 6. 個別の分析手法 1 | 14. 最終課題 1 |
| 7. 個別の分析手法 2 | 15. 最終課題 2 |
| 8. 個別の分析手法 3 | |

授業方法：

講義、実習、レポート作成、プレゼンテーションを組み合わせて授業を行う。
なお、受講者の理解度に合わせて授業内容を変更することがある。

達成目標：

研究で陥りがちな問題点に触れ、分析に対するクリティカルな思考ができる技術を身につける。

評価方法：

授業への参加態度50%、レポート50%で評価する。

教科書：

村井潤一郎 「はじめてのR: ごく初歩の操作から統計解析の導入まで」 北大路書房

参考文献：

山田剛史・杉澤武敏・村井潤一郎 (2008) 「Rによるやさしい統計学」 オーム社

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790101	比較日本文化論演習	1～2	2×2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	火	2	

授業のキーワード：

日本思想、文献の読解、発表

授業のテーマ：

日本思想の分野から一つ以上のテキストを選び、思想家の言葉に直接触れることにより、また必要に応じて教員から為される講義なみの詳しい説明を手掛かりにして、テキストの内容について徹底的に考え、質疑応答を行う。

授業の概要：

最初の授業の際に、履修者の関心領域を聞き、いくつかのテキスト候補の中から使用テキストを選定する。毎回次回予定箇所を少なくとも3回は熟読含味して、テキストを読み進めて行く授業時の質問に答えること。ほぼ一カ月に一度程度の間隔で、読了箇所を自分の言葉でまとめる。

授業の計画：

前期

1. 導入講義。テキストの選定。
2. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐっての議論1。
3. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐっての議論2。
4. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐっての議論3。
5. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論4。
6. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論5。
7. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論6。
8. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論7。
9. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論8。
10. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論9。
11. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論10。
12. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論11。
13. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論12。
14. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論13。
15. 前期の読解と議論のまとめ。

後期

1. 後期導入講義。
2. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐっての議論14。
3. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐっての議論15。
4. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐっての議論16。
5. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論17。
6. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論18。
7. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論19。
8. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論20。
9. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論21。
10. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論22。
11. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論23。
12. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論24。
13. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論25。
14. 日本思想に関わるテキストの読解とそれをめぐる議論26。
15. 後期の読解と議論のまとめ。

授業方法：

毎回次回予定分を予告し、担当者を決めておく。担当箇所だけでなく、次回予定箇所全体を綿密に読んで考え、予習しておくこと。担当者は、担当箇所について授業時に要点を説明し、教員や他の履修生からの質問に答える。

達成目標：

毎回、少なくとも担当箇所に関しては、何度も読んでおくだけでなく、調べられることがあれば調べて、理解を深める。学期末に学期終了分についてまとめ、レポートとして提出する。

評価方法：

(a) 授業への取り組み、(b) 学期末レポート、を同等の比重で重視する。

- (a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) において、
- 講義の理解度が特に優れ、課題についてもよく考えられていると認められた場合…………… A
- 講義の理解度にいくらか不十分さがある場合…………… B
- 理解度に不十分さが相当あるにせよ、2 / 3程度については理解できている場合…………… C
- Cに達していない場合…………… D

教科書：

最初の授業で選定したものを、テキストとして使用。コピーないし、1,000円程度で購入可能な場合は、各自購入する。

参考文献：

授業中に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

1,000円程度で文庫本によるテキストが購入可能な場合は、その費用。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790201	比較日本古典文学演習	1～2	2×2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	水	1	

授業のキーワード：

古典文学、古典文法、古典文学史、読解力、資料調査、発表資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション

授業のテーマ：

日本の近代以前の文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を発見し、その問題について調査・考察したことを、他者にわかりやすく説明・記述する能力を養う。

授業の概要：

はじめに講義形式で発表方法・発表資料の作成方法・参考文献の紹介などを行う。以後は、各自の選んだテーマについて、発表と質疑応答を行う。

授業の計画：

(前期・後期ともに)

- 1 はじめに
- 2 発表方法
- 3 発表資料の作成
- 4 先行論文を読む 1
- 5 先行論文を読む 2
- 6 先行論文を読む 3
- 7 1から5のまとめ
- 8 担当学生の発表と質疑応答
- 9 担当学生の発表と質疑応答
- 10 担当学生の発表と質疑応答
- 11 担当学生の発表と質疑応答
- 12 担当学生の発表と質疑応答
- 13 担当学生の発表と質疑応答
- 14 担当学生の発表と質疑応答
- 15 全体のまとめ

授業方法：

講義形式の後、発表・質疑応答の演習形式

達成目標：

日本の古典文学作品の読解を文法に則して理解することを目指す。そのうえで、自ら問題点を見だし、その問題について・調査・考察したことを他者にわかりやすく説明する能力を身につける。

評価方法：

レポート

教科書：

『新総合図説国語』東京書籍(880円)、小町谷照彦(訳注)『古今和歌集』ちくま学芸文庫(1,500円+税)、※古語辞典(電子辞書は不可)を必ず持参すること。

参考文献：

授業のなかで、適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790301	日本近世教育文化論演習	1～2	2×2	川口雅昭
期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修	
通年	水	3		

授業のキーワード：

古文書、日本漢文、くずし字

授業のテーマ：

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読むようにする。

授業の概要：

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

授業の計画：

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 吉田松陰 | 16 『日本外史』① |
| 2 西郷隆盛 | 17 『日本外史』② |
| 3 坂本龍馬 | 18 『日本外史』③ |
| 4 橋本左内 | 19 『日本外史』④ |
| 5 石田梅岩 | 20 『日本外史』⑤ |
| 6 上杉鷹山 | 21 古文書 仮名読みの基礎① |
| 7 会沢正志齋 | 22 古文書 仮名読みの基礎② |
| 8 『旧幕府』① | 23 古文書 仮名読みの基礎③ |
| 9 『旧幕府』② | 24 古文書 候文の基礎① |
| 10 『旧幕府』③ | 25 古文書 候文の基礎② |
| 11 『旧幕府』④ | 26 古文書 候文の基礎③ |
| 12 『旧幕府』⑤ | 27 古文書 基礎史料解読① |
| 13 『旧幕府』⑥ | 28 古文書 基礎史料解読② |
| 14 『旧幕府』⑦ | 29 古文書 基礎史料解読③ |
| 15 『旧幕府』⑧ | 30 古文書 基礎史料解読④ |

授業方法：

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

達成目標：

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

教科書：

なし

参考文献：

井上久雄著、川口雅昭訳編『大教育者のことば』致知出版社。一、六〇〇円。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
810201	茶道文化論演習	1～2	2×2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	月	1	

授業のキーワード：

点前（薄茶・濃茶）運び 棚 床の間

授業のテーマ：

「亭主と客の距離、茶室空間を学ぶ」
茶道の実技を通して茶道の本質を学ぶ。

授業の概要：

利休により完成した茶道は、現代まで脈々として受け継がれ、日本の伝統文化の根幹をなすものである。そして点前は茶人の長い経験と工夫によって、洗練され一定の方式が生まれ、それが無駄のない、美しい型となって現代まで脈々と受け継がれてきた。点前作法の規律正しさ、節度ある人と人との対応の仕方、手の運び、または身体全体の動作等すべて、五常（人の守るべき五つの道徳—仁・義・礼・智・信）にかなっている。点前を通して亭主と客の距離（間）も含めて探求する。

授業の計画：

（前期）風炉点前

- 1、茶室での亭主と客の動き
- 2、割稽古にみる茶道具の特色(1)
- 3、割稽古にみる茶道具の特色(2)
- 4、茶筌通しの意味
- 5、風炉運び薄茶点前(1)－道具の位置関係
- 6、風炉運び薄茶点前(2)－道具の位置関係
- 7、風炉運び薄茶点前(3)－道具の位置関係
- 8、風炉棚の薄茶点前(1)－道具の位置関係
- 9、風炉棚の薄茶点前(2)－道具の位置関係
- 10、風炉棚の薄茶点前(3)－道具の位置関係
- 11、濃茶の割稽古
- 12、風炉濃茶運び点前(1)－道具の位置関係
- 13、風炉濃茶運び点前(2)－道具の位置関係
- 14、風炉濃茶運び点前(3)－道具の位置関係
- 15、風炉まとめ学習

（後期）炉点前

- 1、茶室での亭主と客の動き
- 2、茶室の特色
- 3、八炉について
- 4、四方さばきの意味
- 5、炉運び薄茶点前(1)－道具の位置関係
- 6、炉運び薄茶点前(2)－道具の位置関係
- 7、炉運び薄茶点前(3)－道具の位置関係
- 8、炉棚の薄茶点前(1)－道具の位置関係
- 9、炉棚の薄茶点前(2)－道具の位置関係
- 10、炉棚の薄茶点前(3)－道具の位置関係
- 11、濃茶の割稽古
- 12、濃茶の運び点前(1)－道具の位置関係
- 13、濃茶の運び点前(2)－道具の位置関係
- 14、濃茶の運び点前(3)－道具の位置関係
- 15、濃茶まとめ学習

授業方法：

基本的には実習主体で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室での実習をいたします。

達成目標：

点前の修練を通して茶道の本質を学ぶ。

評価方法：

授業態度を重視（70%）茶道力の検定（20%）レポート課題（10%）

教科書：

「茶室の名席ハンドブック」神谷宗銀著、淡交社刊 1,500円＋税

参考文献：

実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代・消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800101	比較日本文化論特論	1・2	4	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

日本文化、宗教、わかりにくさ、自然、固有性と外来性

授業のテーマ：

先ず、現代におけるポストモダンの文化相対論の中で「日本文化」を論ずることの意味に触れ、日本文化や日本の諸思想に関する通念についても批判的に検討した上で、更に私達が無自覚的に影響を受けている現代特有の価値観や物の考え方も考慮に入れつつ、日本の文化、宗教、思想等に関わる諸問題について考察する。

授業の概要：

中心的問題として取り上げるのは、キリスト教等の普遍主義的宗教の立場からは解りにくい日本人の宗教とりわけ神道、日本文化における自然という問題、固有性の問題、日本語、日本文化の特質等々。なお、履修者の理解を深める一助となる場合には、授業計画の一部を変更する場合もある。

授業の計画：

前期

1. 導入講義
2. ポストモダンの文化相対論とその誤謬。
3. 日本の文化をめぐる特異な歴史的状況。
4. 日本文化と近代化という問題1。
5. 日本文化と近代化という問題2。
6. 日本文化に関する通念とその検討1。
7. 日本文化に関する通念とその検討2。
8. 西洋人の見た近代化以前の日本。
9. 近代化以前の日本に関する諸研究。
10. 外国人から見た日本文化のわかりにくさ1。
11. 外国人から見た日本文化のわかりにくさ2。
12. 普遍主義的宗教の考え方1。
13. 普遍主義的宗教の考え方2。
14. 日本文化の固有性と外来性という問題。
15. 前期講義まとめ。

後期

1. 日本文化のわかりにくさと神道。
2. 神道の宗教性をいかに考えるか。
3. 経験と言葉という問題1。
4. 経験と言葉という問題2。
5. 経験と言葉という問題3。
6. 経験と言葉という問題4。
7. 経験と言葉という問題と宗教。
8. 経験と言葉という問題と神道。
9. 諸宗教における自然という問題。
10. 日本文化における自然という問題1。
11. 日本文化における自然という問題2。
12. 日本文化の特質1。
13. 日本文化の特質2。
14. 日本文化の特質3。
15. まとめ。

授業方法：

講義は基本的にドイツ語で言う Vorlesung の形式で進められるが、参考資料がかなり頻繁に配布されるし、時には映像的資料も使用される。履修者が思想家の言葉や実際の資料に触れることによって、講義に対する理解を深めるとともに、自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

達成目標：

この種の講義は、知識だけ与えるという講義ではない。できる限り講義に出席して、講義を聴きつつ、考えながら理解する必要がある。そのようにして理解したところに従って、課題をレポートにまとめる。

評価方法：

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末レポート、を同等の比重で重視する。
- (a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) において、
- 講義の理解度が特に優れ、課題についてもよく考えられていると認められた場合 …………… A
- 講義の理解度にいくらか不十分さがある場合 …………… B
- 理解度に不十分さが相当あるにせよ、2/3程度については理解できている場合 …………… C
- C に達していない場合 …………… D

教科書：

特になし。

参考文献：

授業中に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

紹介する参考書を購入する場合は、その費用。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800201	比較日本古典文学特論	1・2	4	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	木/水	4/3	

授業のキーワード：

万葉集・古今和歌集・和歌・和歌の修辞

授業のテーマ：

最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的主題とされた。この講義では、その『古今和歌集』に先立つ『万葉集』の丁寧な読解を通して日本文化の基底にある季節観を知ることからはじめ、『古今和歌集』の読解へと進む。後期は和歌を理解するための和歌の修辞・文法的知識にも触れる。

授業の概要：

『万葉集』『古今和歌集』についての基礎的な知識を習得する。

『万葉集』『古今和歌集』の季節把握とその表現の特質を学ぶ。

授業の計画：

(前期)

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介など
- 2 『万葉集』についての概説 1
- 3 『万葉集』についての概説 2
- 4 『万葉集』の春の歌 1
- 5 『万葉集』の春の歌 2
- 6 1から5までのまとめ
- 7 『万葉集』の夏の歌 1
- 8 『万葉集』の夏の歌 2
- 9 『万葉集』の秋の歌 1
- 10 『万葉集』の秋の歌 2
- 11 6から10までのまとめ
- 12 『万葉集』の冬の歌 1
- 13 『万葉集』の冬の歌 2
- 14 全体のまとめ 1
- 15 『古今和歌集』へ

(後期)

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介・歴史的事項の確認
- 2 『古今和歌集』について
- 3 『万葉集』から『古今和歌集』へ
- 4 和歌の修辞
- 5 1から4のまとめ
- 6 『古今和歌集』1 (以下、担当学生の発表)
- 7 『古今和歌集』2
- 8 『古今和歌集』3
- 9 『古今和歌集』4
- 10 『古今和歌集』5
- 11 『古今和歌集』6
- 12 『古今和歌集』7
- 13 『古今和歌集』8
- 14 『古今和歌集』9
- 15 全体のまとめ

授業方法：

(前期)講義形式を基本とする。

(後期)前半は講義形式、後半は担当する歌を決めて発表・演習形式とする。

達成目標

(前期)『万葉集』についての基礎的な知識を習得するとともに、万葉歌の表現の特質を理解する。

(後期)『古今和歌集』についての基礎的な知識を習得するとともに、古今和歌集の歌の表現の特質を理解する。

評価方法：

レポート

教科書：

(前期)森淳司(編)『訳文万葉集』笠間書院(1,800円+税)、『新総合図説国語』(880円)

(後期)小町谷照彦(訳注)『古今和歌集』ちくま学芸文庫(1,500円+税)、鈴木日出男(編)『原色小倉百人一首』文英堂(533円+税)、『新総合図説国語』(880円)※後期は必ず古語辞典(電子辞書不可)を持参すること。

参考文献：

授業のなかで適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800301	日本近世教育文化論特論	1・2	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：

近世、教育（人づくり）、社会

授業のテーマ：

18世紀末からのウエスタン・インパクトと国内支配体制の混乱に対して、我国の武士階級が行った対応は、人材育成という抜本的改革であった。そして、そこで養成された人材は、結果的に「明治日本」発展の中心的役割を果たすこととなった。

そこで、本講義では、近世、とりわけ、幕末という時代を理解させるため、幕末期の天皇と幕府の関係を中心として、その社会を考える。そして、とりわけ、幕末期において、特異な人づくりを行ったと思われる、長州藩及び薩摩藩における学校教育（主に藩校教育）などを考える。

授業の概要：

18世紀終わりから、19世紀初めに在位された光格天皇は、ある意味では、我国の幕末という時代を準備された天皇であった。そこで、まず、天皇と幕府との関係を中心として、幕末という時代を理解させる。そして、その中で諸問題に対し、長州、薩摩藩がどのような人づくりを行ったかを理解させる。

授業の計画：

1. 幕末期の政治と教育—政治動向①光格天皇の誕生①—
2. 幕末期の政治と教育—政治動向①光格天皇の誕生②—
3. 幕末期の政治と教育—政治動向②天明の大飢饉と天皇①—
4. 幕末期の政治と教育—政治動向②天明の大飢饉と天皇②—
5. 幕末期の政治と教育—政治動向③光格天皇の君主意識①—
6. 幕末期の政治と教育—政治動向③光格天皇の君主意識②—
7. 幕末期の政治と教育—政治動向④対外的危機と朝廷①—
8. 幕末期の政治と教育—政治動向④対外的危機と朝廷②—
9. 幕末期の政治と教育—政治動向⑤大政委任論の成立①—
10. 幕末期の政治と教育—政治動向⑤大政委任論の成立②—
11. 幕末期の政治と教育—政治動向⑥天皇号の再興①—
12. 幕末期の政治と教育—政治動向⑥天皇号の再興②—
13. 幕末期の教育現状—長州藩を中心として—
14. 幕末期の教育現状—薩摩藩を中心として—
15. まとめ
16. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育①—
17. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育②—
18. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育③—
19. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育④—
20. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育⑤—
21. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾①—
22. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾②—
23. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾③—
24. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾④—
25. 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園①—
26. 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園②—
27. 幕末期の教育現状—私塾の教育—適塾—
28. 「学制」の制定と近代学校制度の整備①
29. 「学制」の制定と近代学校制度の整備②
30. まとめ

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

幕末という時代を代表する史料を読み取り、また、その時代を理解できる能力を習得する。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし。史料は適時配布。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
820201	茶道文化論特論	1・2	4	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	5	

授業のキーワード：

日本人としてのアイデンティティを確立する上で伝統文化としての茶道の「道・学・実」を座学として学ぶ。

授業のテーマ：

茶道文化全般の知識を概説する。裏千家の「ことば」、四規七則、利休道歌より茶道のこころを学ぶ。茶の伝来と発展、茶道の成立、千利休から十六代坐忘齋家元まで歴代について、茶室と露地について概説する。

季節を通しての茶道具の取り合わせを学び、お茶の季節感を体得する。茶室における亭主と客の位置について学び、茶室空間を体得する。そして茶事の集大成である茶事を学ぶ。

授業の概要：

茶道 裏千家 ことば 四規七則、利休道歌、茶道具、茶室空間、茶事

授業の計画：

- | (前期) | (後期) |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 茶のこころ (1) | 1. 風炉の道具 |
| 2. 茶のこころ (2) | 2. 炉の道具 |
| 3. 茶と禅 | 3. 一畳台目から三畳の茶室 |
| 4. 茶道の逸話 | 4. 三畳半から四畳の茶室 |
| 5. 茶の伝来と発展 (奈良・平安時代) | 5. 四畳半から五畳の茶室 |
| 6. 茶の伝来と発展 (鎌倉・室町時代前期) | 6. 六畳から十六畳の茶室と立礼の茶室 |
| 7. 茶の伝来と発展 (珠光・紹鷗によるわび茶) | 7. 茶人の工夫 (1) |
| 8. 茶道の成立 (利休のわび茶) | 8. 茶人の工夫 (2) |
| 9. 茶道の成立 (利休七哲と大名茶) | 9. 茶人の工夫 (3) |
| 10. 茶道の成立 (千家の成立とその後) | 10. 風炉の正午の茶事 |
| 11. 裏千家歴代について | 11. 朝茶事 |
| 12. 茶室と露地について | 12. 名残の茶事 |
| 13. 茶事・茶会について | 13. 口切の茶事 |
| 14. 茶道具について | 14. 夜咄しの茶事 |
| 15. 神谷柏露軒における茶室見学 | 15. 神谷柏露軒における茶室見学 |

授業方法：

講義

達成目標：

茶道のこころ、歴史、知識を通して日本の伝統文化を学ぶ。
風炉と炉の茶道具の知識、取り合わせ。茶室の理解。茶事の理解。

評価方法：

教科書：

裏千家茶道(900円+税) 茶道文化検定公式テキスト3級(1,400円+税)
茶席の名席ハンドブック(1,500円+税) 茶道文化検定公式テキスト1・2級(2,000円+税)

参考文献：

茶道文化検定公式テキスト1・2級(2,000円+税) 茶室の名席ハンドブック(1,500+税)
佐々木三味著「お茶事」

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840301	日本近・現代史特論	1・2	4	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	2	

授業のキーワード：

立憲政治 明治憲法 日清戦争 日露戦争 太平洋戦争

授業のテーマ：

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。具体的には幕末のペリー来航から立憲政治の確立、日清・日露戦争から太平洋戦争終戦までの政治過程を講義する。もって近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中で苦闘の歴史を築いたかを知る。

授業の概要：

ペリー来航から、明治憲法の成立を経て日露戦争の終結に至までの政治外交史。

授業の計画：

〔前期〕

- 第1回 日本近代史をどうみるか
- 第2回 開国と政局の転換
- 第3回 討幕運動の展開と幕府の滅亡
- 第4回 明治政府の発足と中央集権体制の強化
- 第5回 明治初期の国際問題
- 第6回 新政府への反乱
- 第7回 立憲政治への動きと自由民権運動
- 第8回 国会開設運動と民権運動の激化
- 第9回 国家体制の整備
- 第10回 憲法の制定と初期議会
- 第11回 条約改正と朝鮮問題
- 第12回 日清戦後と三国干渉
- 第13回 日清戦後の政治と立憲政治の定着
- 第14回 北清事変と日英同盟
- 第15回 日露戦争
- 第16回 前期末試験

〔後期〕

- 第1回 日露戦後の内政と外交
- 第2回 大正政変
- 第3回 第一次大戦と日本
- 第4回 原内閣と政党政治
- 第5回 ワシントン体制と協調外交
- 第6回 政党政治の展開
- 第7回 恐慌と「北伐」の時代
- 第8回 張作霖爆殺事件
- 第9回 満州事変
- 第10回 政党内閣の崩壊
- 第11回 二・二六事件
- 第12回 日中戦争
- 第13回 第二次世界大戦と三国同盟
- 第14回 新体制運動
- 第15回 太平洋戦争の勃発から敗戦へ
- 第16回 後期末試験

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

授業の内容をしっかりと把握する。

評価方法：

試験（100％）によって評価する。

教科書：

鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社、2013年

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし